

(様式 1-2) (用紙寸法は、日本工業規格 A 列 4 とする。)

(※本様式 1-2 については、別紙を添付することも可能とするが、別紙も含め、全体で 6 ページ以内に収めること。また、別紙を添付する場合は、A 4 サイズで作成すること。)

事業計画書

1. 事業の題名

「 Discover kitahiroshima 」 - 北広島町の魅力 再発見 - 」

2. 業務の委託期間

委託を受けた日から平成 27 年 12 月 15 日まで

3. 選択テーマ

※単独テーマに該当する場合には、いずれか一つに○を、複数テーマに該当する場合には、主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テーマ	該当の有無
若者の自立・社会参画支援	○
地域の防災拠点形成支援	
地域人材による家庭支援	
地域振興支援	○
その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援	

4. 支援プログラム実施組織の構成

①組織の全体構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
辰川勝則	千代田中央公民館 館長	
	千代田中央公民館 主任	
	町内企画員	公募
	高校生企画員	自薦・他薦

②事業推進担当社会教育主事（役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる社会教育関係職員）

氏名	所属・役職等	備考欄
辰川勝則	千代田中央公民館 館長	

5. 取組みの趣旨・目的

(地域の現状、解決すべき地域の課題、それに対する解決の取組概要等を記載すること。)

1. 要旨

千代田高等学校の2年生を対象にふるさと発見ツアーを実施する。

ツアーの企画は、町内から募集した企画員と自薦・他薦・学校推薦などから選ばれた高校生企画員との協働により企画する。ツアー実施日は両企画員が千代田高等学校の2年生を案内する。

- たとえば・・・
- 地元の史跡を巡り、地域の発展の歴史と自分のルーツを探る「歴史探訪ツアー」
 - 本町出身者が起業した企業を巡り、話を聞いたり作業を体験する「ワーキングスクールツアー」
 - 神楽や花田植、その他地元に残る民俗芸能（花笠とか・・・）の歴史や起源、いわれなどを探り、舞や楽などを体験する「芸能発見ツアー」
 - 北広島町に移住して新たに工房を構えている、いわゆる「ターン」で活躍している方（神楽面とか刀剣とか、版画とか。家具とか窯とか。お菓子とか。）を訪ね、外から見た北広島町の話聞き、北広島町の魅力を教えてもらう「一日弟子入りツアー」

2. 目標

高校生が大人と協働してツアーの企画・運営を実現し、相互理解や親睦が進むこと。

3. 目的

高校生の北広島町への帰属意識の向上を図り、愛着を持つこと。

町内募集の企画員は異世代である高校生と関わることで、千代田高等学校と高校生への理解と関心を深める

○地域の現状

- ・北広島町人口比較 平成17年3月末 21549人、平成26年3月末 19685人
- ・有効求人倍率(平成25年度) 広島県 1.1倍、北広島町 2.2倍
→北広島町の有効求人倍率は高いが、千代田高校の生徒に限ると、平成25年度卒業生においては、就職者の内の半数は町外で就職している。企業説明会等を効果的に行い、これまで以上の周知を図る必要がある。
- ・千代田高校進路状況(過去3年間) 大学・短大 40%、専門学校 26%、就職 34%
- ・県営千代田工業団地、千代田工業流通団地、氏神工業団地、大朝工業団地と4つの大きな工業団地がある。
- ・広島市中心部へ約50分で通勤可能。
→約1000人が広島市へ通勤している。
- ・広島市からの通勤者は約2000人。
→北広島町の雇用力の高さの表れとしているが、町外からの通勤者を北広島町に定住するところまでは出来ていない。
- ・千代田高校への関心度 PTA総会、授業参観の保護者の参加率 約30%
- ・千代田高校の生徒数 約150人
- ・町内から応募された人が企画員となり、それぞれが持っているノウハウを活かしていくことができる。
→異世代交流の場としても考え、人と繋がることで、地域への繋がりへと発展することを期待する。

よって、年齢層の幅は広いほうが多世代交流がより出来て良いので、年齢層の幅は制限しない。

・単町費で賄うことは難しいので、助成金(ゆめ基金、宝くじ)を利用することができる。

→体験型(企画)での学習事業となることを期待する。体験型の事業には、助成金の対象となるものがあり、まずは試験的に行ってみて、効果により継続的に行うことも考える。

・北広島町出身者が起業した企業(三島食品、大朝電子)もあり、密度の濃い連携が取れる可能性がある。

→北広島町発祥の企業にも関わらず、千代田高校卒業生においてはこの企業に就職する者がここ数年いない。高校生の考える将来の就職先としての期待と企業サイドとして千代田高校の生徒の存在をアピールすることが出来るのではないかと想定する。

・「ふるさと再生」は町・教育委員会ともに重要課題としており、町の組織をフルに活用することができる。

・国指定の重要文化財、史跡、名勝は多数あり、高校生へ発信できる。

○課題

・広島県教育委員会の県立高等学校再編整備基本計画により、「1学年3学級以下の小規模校については、計画的に統廃合を推進する。」とあり、千代田高校は生徒数の確保が課題である。

→魅力ある高校を構築していくことで、入学を希望する生徒も増えてくる。同じく、北広島町に魅力があれば定住意識なり帰属意識が芽生える。生徒の確保と定住は無関係ではないと考え、ふるさと教育は必要であり関連性がある。

・高校生に興味を持って参加させることが優先課題で、それとともに企画員と高校生との年齢的なギャップをどう埋めていくかも課題である。

6. 支援プログラムの具体的実施内容及び実施方法等

1.主催

「ふるさと発見ツアー」企画員会

町内企画員…町内在住者

・広報や町内放送で募集する。

高校生企画員…千代田高校の生徒

募集方法

・自薦他薦

・事前に行う記名式アンケート(北広島町への要望や思い、自分自身の将来など)により、企画員を指名する。

・生徒会役員

2.対象者

地域住民、千代田高等学校2年生

3.実施期間

平成26年12月～平成27年12月

4.実施場所

北広島町内

5.展開

- ① 千代田高等学校と協議し、平成 27 年度の学校行事として組み込む。
- ② 町内企画員の募集・決定
- ③ 高校生企画員の選定・決定
- ④ 合同企画会議の実施
- ⑤ 事業実施（回数・内容は企画会議の中で決定、年度内に終了する）
- ⑥ 評価
- ⑦ 教育長へ報告

6.事務局

千代田中央公民館

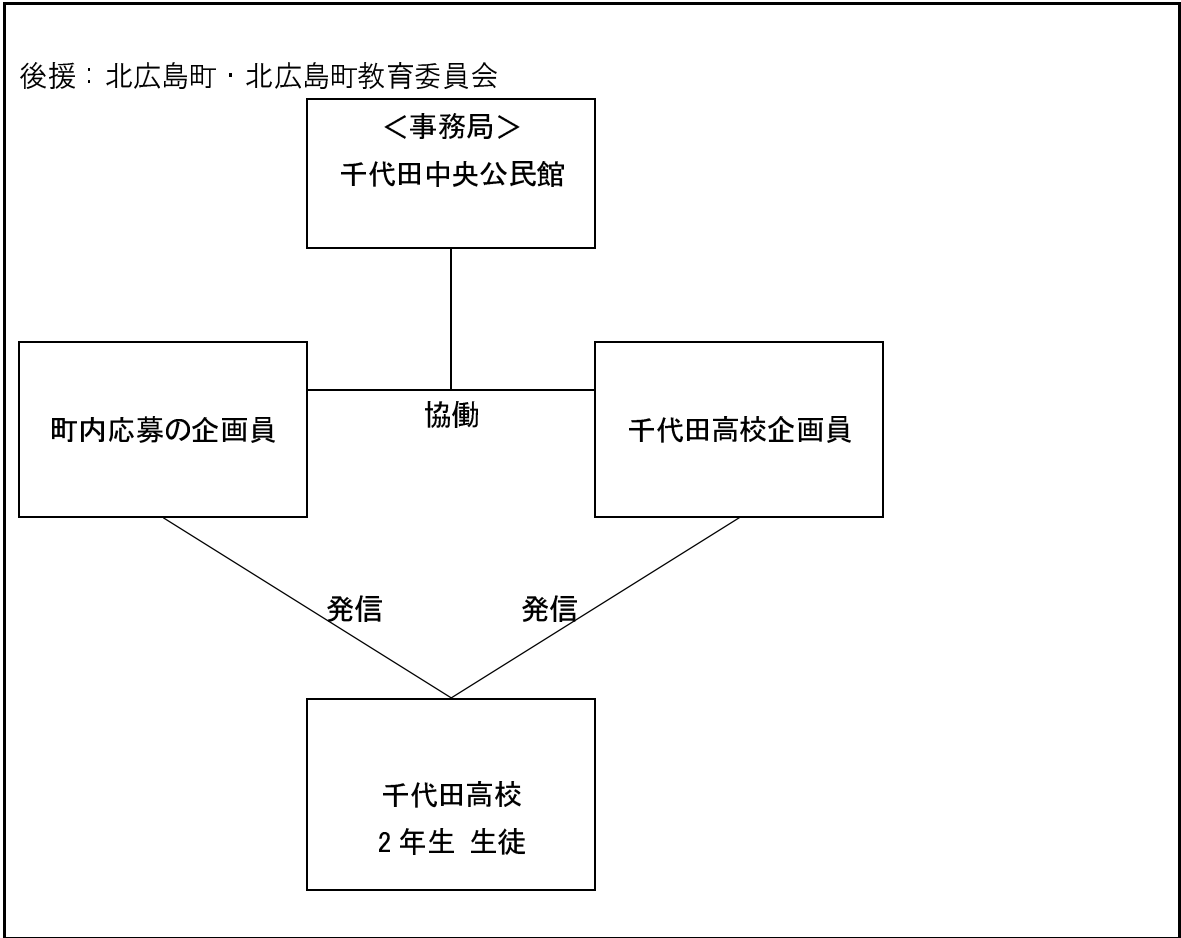
7.後援

北広島町・北広島町教育委員会

7. 支援プログラムの実施により得られることが見込まれる成果・効果

企画段階から参加する高校生は、北広島町の過去・現在・未来を考える場となり、併せて自分自身の将来も重ね合わせて考えることができれば、北広島町の将来を担う存在となる。帰属意識が向上することで定住意識が芽生える。
町外在住となっても、将来ふるさと納税で町を支援してくれる種まきとなること。

8. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）



9. 支援プログラム実施スケジュール

・平成26年度

項目	12月	1月	2月	3月
① 千代田高等学校との協議	→	→	→	
② 町内企画員の募集				→

・平成27年度

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
③ 町内企画員の決定	→								
④ 高校生企画員の選定・決定	→	→							
⑤ 企画会議の実施			→	→	→	→			
⑥ 事業実施							→		
⑦ 評価								→	
⑧ 教育長へ報告									→

10. 支援プログラムの評価にかかる項目

(評価体制、評価手法等を本プログラムの成果指標も含め、できるだけ具体的に記載すること。)

評価は企画員全体で行い、それぞれが評価シートにより評価し、全体で集約する。

評価項目

1. 企画意図（趣旨・目的・目標）はわかりやすく明確だったか。
2. 町内企画員と高校生企画員、参加した高校生にとって魅力的なものだったか。
3. 高校生の当事者意識を高め、やる気を引き出すものだったか。
4. 学校・訪問先との連携・連絡は十分できていたか。
5. 当日までの準備期間、スケジュールは十分だったか。
6. 町内企画員と高校生企画員とのコミュニケーションや良い雰囲気は作り出せたか。
7. 当日の運営はスムーズだったか。
8. 町内企画員と高校生企画員との協働関係は育まれたか。
9. 参加した高校生は満足したか。
10. 町内企画員と高校生企画員は満足感・達成感を得られたか。
11. 報告会はできたか。

【以下は、複数年度の取組み実施を予定している場合に作成すること】

11. 初年度の実施内容、成果を踏まえた次年度以降の支援プログラム実施内容及び実施方法等

--